

沼津市

# 明治史料館通信

1992. 10. 25 (季刊 年4回発行) Vol. 8 No. 3 通巻第31号



渡瀬寅次郎肖像

寅次郎の娘、小坂花子が  
興農学園に贈ったもの  
(財団法人興農学園所蔵  
沼津市明治史料館保管)

Boys, Be ambitious.  
Inazo Nitobe.

新渡戸稲造が興農学園のために揮毫した“Boys be Ambitious”  
新渡戸と渡瀬寅次郎は札幌農学校の同窓。現在、この扁額の原本は北海道大学が所蔵。本年、東海大学がこの複製を沼津市に寄贈。沼津市ではそれをさらに複製し、市内の中学校に配布した。

シリーズ

沼津兵学校とその人材 30

## 渡瀬寅次郎の遺産

## — 興農学園職員日記の紹介 —

沼津兵学校附属小学校出身の渡瀬寅次郎（一八五九〜一九二六）は、教育者、キリスト者であり、東京興農園を設立し外国品種の普及・農機具の導入により農業の近代化に取り組んだ人物として知られる。昭和四年（一九二九）に静岡県田方郡西浦村久連（現沼津市）に開設された興農学園は、彼の遺志によりデンマークの国民高等学校の教育方針に範を求め、キリスト教主義に基づく農業指導者の養成を目指した学校だった。

ここに抜萃・紹介する史料は、興農学園の一職員が記した昭和十四年（一九三九）から翌年にかけての日記である。筆者は沼津市高島町でパン屋を営んでいた榎山英一郎（一八八一〜一九四一）である。彼は熱心なクリスチャンであり、その関係から興農学園でパンをはじめとする様々な食品製造の

指導を行っていた。当時校名は正式には久連国民高等学校といい、校長は二代目の大谷英一であった。日記の原本は遺族から東海大学に寄贈されたが、複製は内村恵津子・田中澄子氏の御好意により当館に寄贈された。

## 昭和十四年

一月十日

大根切干作業ス

一月十日

ママレド試製開始ス

一月十九日

午後参時沢庵漬の作業を終ル

樽一樽は福神漬になす 大谷校長宅新年親睦会 役員招待をなす

山田、渡辺、渡辺、牧田、中原、齋藤、前川、榎山、榎原

一月三十一日

午前八時半より講集会を始める。始めに一同食堂へ集まり一同君か

代を歌ひ校長先生の御□をして榎山少々ばかりの注意をして後皇軍勇士又白衣勇士戦死者の家庭の上に目禱をして自習にうつりました。主婦会も神様の御恵によって無事に終了致しました。

(二月) 十一日

作業は豆腐ノ製造ヲナス

(三月) 十二日

本日は明治製菓に出スネーブル五〇〇〇 勿荷造ヲナス 本日は夏柑一〇〇〇 勿第一農場に取りに参る

(三月) 二十五日

密柑罐詰作業ヲナス

第二農場一五〇〇 勿ノ密柑ヲ作る

(四月) 九日

本日は新入学生の歓迎会をなす

午後六時三十分夕食七時なりまして鳥飯におとうふ汁

八時三十分より開会渡辺忠吉君司会者 同窓会主催仲々盛会 校長

榎山 渡辺 牧田 前川 寮長

石黒先生 寮兄 高橋氏 杉山

田辺 印君 学生

(四月) 二十四日

苗代田に施肥をなす十一時終る

午後一時より第三農場蔬菜部ノ奉仕に参る

五月一日

本日作業準備パン焼研究ヲナス

(七月) 十一日

久連村灯火管制ヲ施行スル

(八月) 十日

加工場来観者島根県那賀郡都治村視察 (多田昌一様)

本日は渡辺忠吉氏より細田君ノ勤勞の点ヲ誉められる 開墾地ノ村内に居住する円満なる家庭の実話ヲ伺ふ最も大切な御話しであります 渡辺氏ハ千金ヲ与へられたと申しました 聖書ニ義ハ国ヲ高シ罪ハ民ヲ辱カシムトアリマス

(八月) 二十八日 故江原素六先生ノ御指導の思ひ出を深く謝す 殊に日々学ぶ様にし居ります

十月二日 本日ハ沼津救世軍少隊長来連ス面語ス 寄附金の申出

十月二十九日 本日作業ハ白味噌製造にかゝる筈なりしも久連女子青年団の作る菓子団子ヲ製する事にしたために休止す

十一月六日 本日稲苺 総員写真ヲ撮ル

十一月十二日

本日作業休ム 本日東京から渡瀬御一家様方御来校になられました、パンと密柑の砂糖煮ヲ差上げる

(十二月)二十五日

祝クリスマス 本日学校ハ(祝御降誕を)盛會に終る

本日ハ加工部ニ於て榎山主催の下に御降誕の祝をなす 小供達約学生三〇名外幼児其他二十名集る

昭和十五年

(二月) 式十日

本日作業豆腐 本日密柑缶詰ヲナス 塾生実習ス 巻締機の練習ヲナス

(二月) 二十七日

本日卒業式 午后七時開會

讚美歌 聖書 校長ノ訓辞 神を標準トセヨ

渡辺忠吉氏ノ祝詞 キリストに効ふものとなれ

本田塾生謝辞 一同代表ス

第二説會 個人祝詞

榎山 牧田美代治氏 山田貞助

氏 前川 高橋良

塾生 光井(希望) 尾崎 松井

山田 呉 宮本 本田 金子

来會者 石黒の御奥様 久保田様

及御令息 校長の御奥様 惠津子様

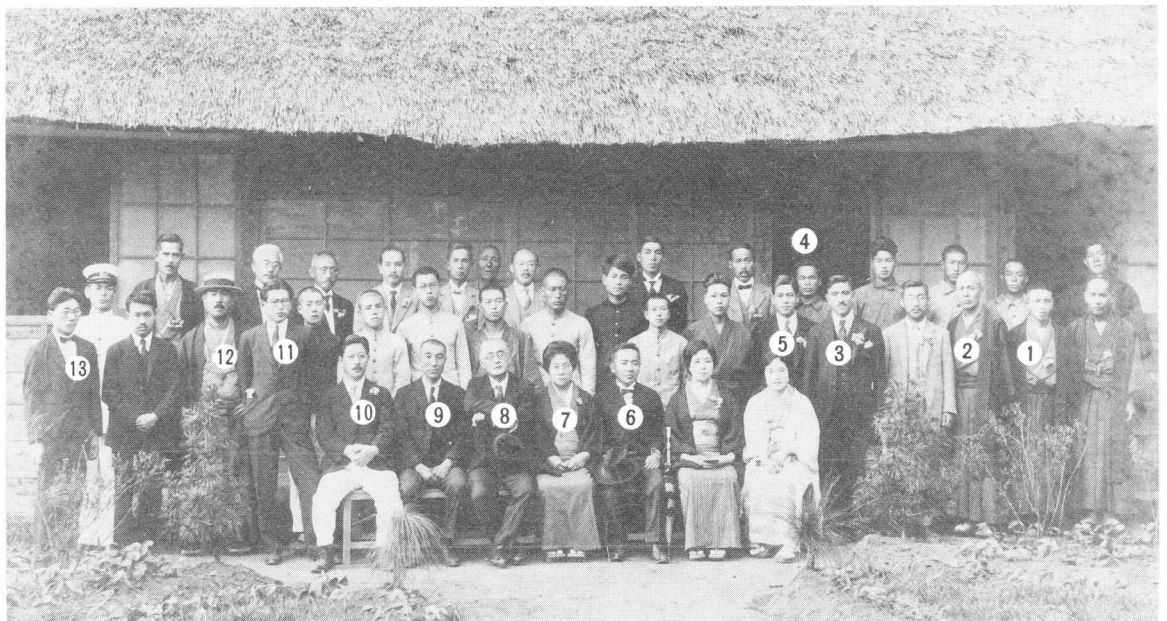
(四月) 三日

本日我国の神武天皇祭にあらせられ二千六百年皇紀ある皇祖の祝日を賀す 国民として祝賀の意を表し謹みて神に感謝し奉る 併而我国の隆盛と東亜の再建設を禱る アーメン

以上榎山日記の一部を紹介した。彼はこの日記の翌年(昭和十六年)に亡くなり、興農学園自体も十七年に西浦農学校と名を変え、十八年(一九四三)三月には閉鎖に至る。その後建物は翼賛壮年団の道場として使用されたらしい。

この日記からはまだそれほど戦争の影が見えないが、日中全面戦争は既に始っており、やはり所々にそれが伺える箇所がある。キリスト者としての内面的苦悩や矛盾までは伺えないが……。

昭和十五年十一月、山上の農園の一面に同窓会によって渡瀬寅次郎先生記念碑が建てられたが、現在同碑は県道沿いの田寄宿舎跡(丸光旅館前)に移されている。



昭和4年(1929)4月 興農学園の開校式 (渡辺忠吉氏提供)

- ① 郵便局長 ② 前村長 ③ 田中二郎 ④ 渡辺忠吉 ⑤ 渡瀬三郎 ⑥ 大島正健 ⑦ 渡瀬香芽子(寅次郎夫人) ⑧ 新渡戸稲造 ⑨ 平林広人 ⑩ 渡瀬雅太郎 ⑪ 大谷英一 ⑫ 西浦村長 ⑬ 松前重義

## ぬまづ近代史点描 ⑱

## コレラ騒動と沼津の民衆

幕末の開国は「伝染病への開国」でもあった。コレラの侵入である。

安政五年（一八五八）の最初の大流行により、江戸では三丁四万人が死亡したという。沼津宿でも同年七月に感染が始まり、九月に鎮静するまでに一〇九人が死亡したという（間宮喜十郎著「沼津近世大事記」）。原宿ではコレラ除けの祈願のため産土社への参詣や念仏講中の百万遍が盛んに行われた（『原宿問屋渡辺八郎左衛門日記』）。

コレラの恐怖は維新後も続く。次の全国的大流行は明治一二年（一八七九）で、死者は十万人以上

に及んだ。沼津駅でも八月から十月までに約五〇人の患者が発生し、うち二六人が死亡した（間宮著）。

政府や県は、近代化政策の一環として西洋医学に基づくコレラ対策を実施しようとするが、医療や衛生に対する観念の乏しい一般民衆にとっては神仏の加護に頼る気持ちのほうが強かった。そのため全国各地で、行政担当者や警官が強制的に実行するコレラ予防（消毒や隔離）に反発し、民衆が一揆・騒動を引き起こした。

明治一二年八月二二日、上香貫村で他村の女性がコレラで死亡し



富士入山武氏乃碑  
（沼津市千本緑町 長谷寺）

後の碑がそれ。前の「S」が刻まれた墓は、静岡藩沼津病院頭取杉田玄端の墓とも、その甥杉田廉卿の墓ともいわれる。

た。遺体を同村字二ノ洞で火葬にするため運搬したところ、村民二百余名が鉢巻をし、手に手に竹鎗を持ち鐘や太鼓を打ち鳴らし、各所に篝火をたき、通行を妨害するという行為にでた。戸長は懸命に説得にあたったが、沼津警察署から

警部・巡査が派出するに及んでようやく治ったという（『静岡新聞』明治12・8・27）。上香貫村では一五年（一八八二）八月にも同様の騒動が起きている（『沼津新聞』明治15・8・10）。一五年は一二年に次ぐ大流行の年であり、沼津駅でも患者八二名が発生、二一名が死亡した（間宮著）。

十二年のコレラ流行に際し、その対策に奔走し殉職した二人の沼津警察署巡査がいた。富士吉信と入山熊太郎という。二人の死は、命を賭けて近代医療・衛生行政の普及につとめた結果であると賞讃され、十三年九月に顕彰碑が建てられた。篆額は静岡県大書記官石黒務、撰文は県衛生課長蜂屋定憲、書は衛生課御用係加藤信一郎。コッホによるコレラ菌発見は明治一六年（一八八三）である。

## お知らせ欄

◎古文書解読入門講座の日程が変更になりました。

前号でお伝えした日程が左のように変更となりました。よろしく御承知下さい。

10月17日、24日、11月7日、14日、21日の各土曜日（5回）

◎沼津城の石垣の発掘調査が行われました。

この九月、市文化財センターにより大手町の中央公園の南東地点で発掘調査が行われ、沼津城の石垣の一部が確認されました。水野家の定紋入の瓦なども出土しました。

◎くん蒸のための特別休館について

館内のくん蒸作業のため、左記の日程で休館します。

11月10日（火）、11日（水）

沼津市明治史料館通信 第31号

編集 沼津市明治史料館  
発行

〒410 沼津市西熊堂三七二一  
電話 〇五五九一三三三三  
FAX 〇五五九一五三〇一八